

平成24年10月30日

日清製粉グループ 第2四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

当第2四半期累計期間は売上高2,217億97百万円、経常利益114億68百万円。

[平成25年3月期第2四半期連結累計期間決算]

(株)日清製粉グループ本社（社長 大枝 宏之）は、本年4月に長期的な成長を実現するため、トップライン（売上高）の拡大と海外事業の拡大を最優先戦略とする中期経営計画「NNIー120、スピードと成長、拡大」をスタートし、各事業において積極的な取組みを開始しております。

平成25年3月期第2四半期連結累計期間につきましては、東日本大震災後の復興需要並びに政策効果はあったものの、欧州債務危機等による景気の不透明感や長引くデフレ環境により消費者の節約志向が継続するなど厳しい環境となりました。このような中、食品事業において消費者キャンペーンを展開するなど積極的な出荷拡大施策を実行するとともにグループを挙げたコスト削減に取り組みました。また、将来のコスト競争力強化施策として本年5月に着工した製粉福岡新工場の建設は順調に進捗しております。一方、海外事業の拡大に向け本年3月に買収した米国の製粉会社Miller Milling Company, LLCについても順調に推移しております。なお、本年4月に輸入小麦の政府売渡価格が5銘柄平均で15%引き下げられたことを受け、本年7月に業務用小麦粉価格の改定を実施いたしました。

この結果、第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は食品事業における販売促進やMiller Milling Company, LLCの連結効果により、2,217億97百万円（前年同期比103.4%）となりました。利益面では、食品事業において拡販費用を増加したことなどから、営業利益は99億12百万円（前年同期比95.1%）、経常利益は114億68百万円（前年同期比96.4%）、四半期純利益は68億33百万円（前年同期比102.3%）となりました。

[平成25年3月期通期連結業績予想]

我が国経済は、海外景気の更なる下振れ懸念や中国情勢の影響等から、今後の景気動向が懸念されます。また、当社グループを取巻く状況は、厳しい雇用情勢やデフレ環境を背景に消費者の低価格・節約志向の継続が見込まれるなど、引き続き厳しいことが予想されます。このような状況におきましても、当社は製粉を始め、各事業において安全な製品を安定的に供給するとともに、お客様に新たな価値を提供する新製品を開発・投入するなど、トップライン（売上高）の拡大に向けて中期経営計画で策定した諸施策に積極的に取り組んでまいります。

以上の結果、当年度の業績見通しにつきましては、当初の予想を据え置き、売上高4,591億円（前期比103.9%）、営業利益は235億円（前期比101.7%）、経常利益は263億円（前期比100.6%）、当期純利益は146億円（前期比109.6%）としております。

以上